

原子力の安全研究体制の充実・強化事業ロジックモデル

背景: 原子力の安全性確保のため、規制ニーズに対応した安全研究の実施の推進や、原子力規制庁における原子力規制に必要な知見の蓄積及び研究職員の人材育成の推進を目的に、技術支援機関(TSO)である日本原子力研究開発機構(JAEA)や大学等と共同研究を実施し、研究実施体制の充実・強化を図るものである。

(インプット)

予算: R1年度823百万円 (R1年度からの新規事業)

(アクティビティ)

実施方針に従った安全研究活動等

共同研究先と連携し、安全研究に必要な設備等を整備し、規制庁職員が自ら研究計画の立案・試験等を実施し、得られた成果の分析・整理・取りまとめを行うことにより、研究職員の能力向上を図る。

(アウトプット)

規制活動向上のための最新知見を獲得し、安全研究活動等に活用するための体制強化

規制庁の研究職員が使用できる施設や装置の整備

施設や装置を適切に使用し、有効なデータを取得する技術習得

取得したデータや解析結果を報告書や論文としてまとめる能力の向上

研究者としての情報発信力、コミュニケーション能力(国際会議、学会等での発表)の向上

規制ニーズを考慮した(安全研究実施方針に従った)原子炉施設等の安全性に係わる技術的知見の取得及び評価手法の整備

<共同研究実施例>

- ・シビアアクシデント時のソースターム評価に関する研究
- ・原子力施設耐震評価モデルの妥当性確認に関する研究
- ・廃棄物・クリアランス・廃止措置に係る放射能濃度分析の信頼性確保に関する研究
- ・廃棄物埋設の坑道閉鎖措置確認に係る研究

(アウトカム)

原子力安全規制を支える強固な技術基盤の構築と維持、厳正な審査及び規制基準の継続的改善

- 今後の原子力規制を支える高度な研究能力を持った職員の育成
- 審査・検査等の規制ニーズに対応した知見やデータの提供